

1. 業務の概要

○業務の目的（抜粋）

- 猿投台地区の交通安全への対策を考えるために、地区内交通の現状・過去の事故・住民の意識等を検討する材料となる資料を作成・提示することで、交通安全上の課題を整理し、地域で取り組む交通安全対策を提言する材料とします。

○対象地域

- 豊田市猿投台地区（猿投台中学校区）

○業務内容

- 1) 打合せ協議、2) 道路交通事故発生状況等の現況整理、3) 安全対策の提示、4) 地域住民への意識調査用帳票の作成・同調査集計、5) 対策に向けての方針取りまとめ

2. 道路交通事故発生状況等の現況整理

- 対象地域における交通安全対策を検討するための材料として、道路交通事故の発生状況や、地区の交通安全に係る様々なデータを収集・整理しました。現況整理の結果得られた知見をまとめとして以下に示します。

[1] 交通事故発生状況

- 交通事故発生件数の経年的変化をみると、全体的には減少する傾向にあります。
- 交通事故の発生地点は、国道や県道、平成記念橋付近の幹線道路で多発しているだけでなく、幹線道路に囲まれた住宅地内でも事故が発生しています。

[2] 道路交通状況

- 交通量は、国道や県道などの幹線道路で多く観測されています。
- 通学時間帯の7～8時台の旅行速度は、幹線道路では渋滞のために速度が低下している箇所がある一方、幹線道路以外の道を高い速度で走行している区間が存在します。
- 急減速の発生状況は、幹線道路が交差する交差点付近で多く発生していますが、これには交通量そのものが多いことも関係しています。
- 国土交通省の調査によると、越戸地区の生活道路を抜け道として利用している車両が確認されています。

[3] 通学路指定状況

- 通学路が指定されている道路においても、交通事故の発生や、ヒヤリハットの指摘、さらには抜け道利用が確認される箇所が存在します。

[4] 現況整理全体のまとめ

- 猿投台地域内においては、特別に危険な状況は確認されなかったものの生活道路の抜け道利用の実態など、潜在的な危険が存在することが確認されました。

3. 安全対策の提示

- まち歩きにより得られた指摘を取りまとめ、猿投台地域の危険箇所を整理するとともにその結果を基に交通安全対策を検討しました。
- また、まち歩き後の意見交換の場で、交通安全対策メニューの紹介を行いました。

紹介した交通安全対策メニューの例



4. 地域住民への意識調査票帳票の作成・同調査集計

- 地域住民の交通安全意識を把握するため、猿投台交通安全シンポジウム（詳細は裏面に示す）の参加者や猿投台中学校の生徒を対象に、意識調査を行いました。
- 調査結果の概要は裏面に示します。

5. 対策に向けての方針取りまとめ

- 以上の結果を踏まえて今後の交通安全対策に向けた方針の取りまとめを行いました。

[1] ハード的対策の方針

- ハード的対策として、対象地域において現在進行中の対策も含めて、関係機関が行う交通安全対策を整理しました。
- 猿投台地域では、平成28年度から29年度にかけて青木台地区（一部平戸橋一区を含む）のゾーン30導入が計画されています。平成30年度には猿投台地域の要望において、越戸こども園や平戸橋駅周辺を中心とした区域にゾーン30導入が提案されています。
- 既に進められているイメージハンプやハンプ等の対策効果の検証結果を踏まえて、当該地区の道路交通事情に適した対策を実施していくこととされています。

[2] ソフト的対策の方針

- ソフト的対策として、地域会議やアンケート等で出た意見も踏まえ、今後の地域住民が主体となった活動の方向性を下表の通り整理しました。

表 今後の地域住民が主体となった活動の方向性

活動	内容	狙い
登校見守り 【従来からの活動】 まち歩き 【従来からの活動】	登校時の児童の安全を確保するため、交通量の多い道路や交差点等に立ち、通行時や道路横断時の誘導や自動車への注意喚起を行う 地域内の道路に危険な箇所がないか確認する 道路空間への植え込みの繁茂や看板等の設置により視界が遮られる状況等がないかをチェックする	通学する児童の安全確保 運転者への注意喚起 地域の道路全体の安全確保 まち歩き参加者の意識向上
速度遵守 モデルカー 【他の取り組みを契機とした活動】	ゾーン30の指定が順次進められるのを契機として、地域住民がゾーン30区域内を走行する際は速度遵守を徹底し、地域外の自動車が高速度で走行しないよう誘導する 速度遵守していることを周囲に注意喚起するためのステッカーを、地域住民の自動車に貼ることも有効	生活道路内の走行速度低下 地域外運転者の抜け道利用の減少 速度遵守モデルカー運転者の意識向上
交通安全広報 【他の取り組みを契機とした活動】	ゾーン30などの導入を周知する広報に合わせて、本業務で行った現況整理や危険箇所抽出、アンケート調査結果※等を紹介し、地域住民の交通安全意識の向上をはかる	地域住民の交通安全意識の向上 通学する児童生徒に対する運転者の思いやりの意識醸成
猿投ダンプ事故関連の啓発 【従来からの活動】	猿投台ダンプ事故の教訓を今後も継承するため、慰霊祭や節目での啓発活動を継続する	地域住民の交通安全意識の向上 猿投ダンプ事故の記憶の継承

※裏面に意識調査結果の概要を示します

猿投台地域交通安全シンポジウム参加者に対する意識調査結果の概要

平成28年12月3日土曜日に、猿投台中学校において、猿投ダンプ事故※から50年を契機とした豊田市における交通安全意識を高めるためのシンポジウムが開催されました。

シンポジウムでは、猿投ダンプ事故の記録上映やパネルディスカッションの他、地域の交通安全の面から危険な箇所などを指摘するワークショップを開催しました。そして、参加者と猿投台中学校の生徒の皆さんにアンケートをお願いしました。

ここでは、そのアンケートの結果をご紹介します。中学生たちの回答からは交通安全に対する切実な願いを感じることができます。自動車のドライバーは、責任ある大人として見本となるだけでなく、中学生たちの言葉を自動車運転の際に思い起こし、他人への思いやりを持って安全な運転を心がけていただきたいと思います。

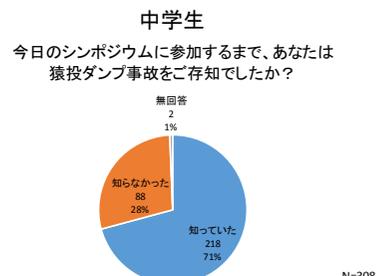
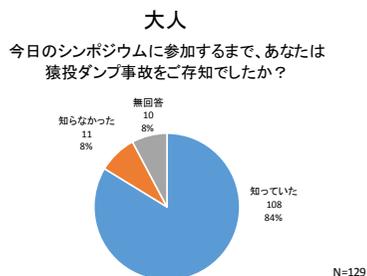
※昭和41年12月15日 午前8時50分頃、国道153号を走行中のダンプカー（8トン）が、居眠り運転のため横断歩道前で停車していた小型トラックに追突し、2台ともが横断歩道を横断中の越戸保育園（現：越戸こども園）の保育師と園児約50人の列に突っ込み、次々と跳ね飛ばした。保育師1人、園児10人が死亡、22人が重傷を負った凄惨な事故。

■ アンケートの概要

- アンケートは、シンポジウム参加者285名（一般）と中学生333名に配布しました。
- 一般（大人）からは129名（回収率45.3%）、中学生からは308名（回収率92.5%）の回収がありました。

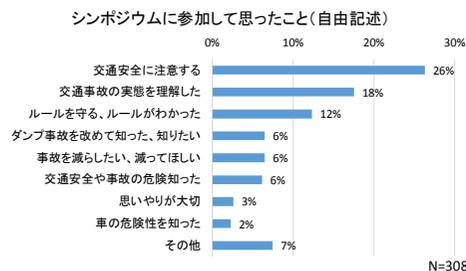
■ 猿投ダンプ事故の認知度【一般（大人）・中学生】

- 一般の参加者（大人）のうち、猿投ダンプ事故を知っていたのは84%であり、大部分の参加者が猿投ダンプ事故をご存知でした。中学生では、猿投ダンプ事故を知っていたのは72%であり、大人よりはやや少なめでした。



■ シンポジウムに参加して思ったこと【中学生】

- 中学生を対象にシンポジウムで感じたことを質問した結果、自らの行動を振り返って改める「交通安全に注意する」が最も多くなっています。
- 次いで「交通事故の実態を理解した」が多くなっています。これは、愛知県の死亡事故死者数が全国ワースト1であることや、交通事故が起こりやすい条件等を知った事が大きいようです。
- 「ルールを守る、ルールがわかった」ことについては、横断歩道では自動車が一時停止する必要があることを知らなかったという意見が多く回答されています。
- 「思いやり」の大切さを訴える回答もあります。



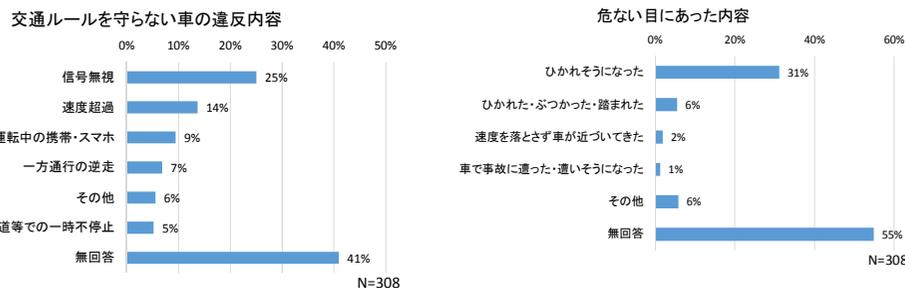
■ 地域の交通安全対策に対する意見【一般（大人）】

- ゾーン30（下図参照）の対策について賛成と反対の意識を質問した結果、「自宅周辺の道でも賛成」が85%を占め、「自分が歩く道なら賛成」の6%を合わせると9割以上が賛成しています。
- 明確に反対する人はおらず、ゾーン30対策に対する理解が広がっているといえます。なお、構成比は無回答者を除いて算出しています。



■ 交通ルールを守らない車の違反内容・危険な目にあった内容【中学生】

- 中学生を対象に、交通ルールを守らない車の違反内容を質問しました。その結果、0割が何らかの違反内容を回答しており「信号無視」が最も多くなっています。次いで「速度超過」「運転中の携帯・スマホ」「一方通行の逆走」、そして「横断歩道での一時不停止」が多くなっています。いずれも子ども連れの交通安全に直結する違反です。子どもたちにルール遵守を訴えるだけでなく、大人たちのルール遵守意識の徹底が求められます。
- また、危険な目にあった内容を質問した結果、およそ5割が危険な目にあった内容を回答しており、「ひかれそうになった」が最も多くなっています。そして、実際に「ひかれた・ぶつかった・踏まれた」割合も6%存在し、負傷の程度は定かではないものの自動車と子どもの身体が接触する事象は決して少なくないことが確認できます。



■ 交通安全について思うこと・大人たちに伝えたいこと【中学生】

- 「安全運転・思いやり行動をして欲しい」という指摘が最も多く、全体の40%近くの子どもの意見が指摘されています。大人たちの思いやり行動の実践が求められます。
- 子どもたちが自身が「交通安全に気をつける」という意識も持っており、大人も率先して意識することが求められます。
- 見守り隊や地域の取組に対する感謝の言葉もあります。子どもたちのために日々努力している地域の方々の想いが、生徒たちにもしっかり伝わっていること、この表れであるといえます。

